



東京湾再生官民連携フォーラム

平成 27 年度活動報告

平成 28 年 10 月 22 日
東京湾再生官民連携フォーラム

目次

平成27年度活動報告－1

I. 事業期間	2
II. 事業の成果	2
III. 事業実施経過	3
◆東京湾再生官民連携フォーラム 平成27年度第1回企画運営委員会	3
◆東京湾再生官民連携フォーラム 平成27年度第2回企画運営委員会	3
◆東京湾再生官民連携フォーラム 平成27年度第3回企画運営委員会	4
◆東京湾再生官民連携フォーラム 平成27年度第4回企画運営委員会	4
IV. 会員募集の実施	5
V. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成27年度総会	5
VI. 交流会 CSR-NPO 未来交流会	7
施設見学会	11
VII. 政策提案 「生き物生息場づくり」に関する提案書	13
VIII. プロジェクトチームの活動状況	13
◇モニタリングPT	13
◇生き物生息場づくりPT	13
◇指標活用PT	14
◇東京湾大感謝祭PT	14
◇パブリックアクセスPT	15
◇海水浴復活の方策検討PT	16
◇江戸前ブランド育成PT	16
■ フォーラムへの寄付金	16
■ 広報活動/交流会参加	27
IX. 東京湾大感謝祭	18

平成27年度活動報告－2

・平成27年度決算	26
-----------	----

平成28年度活動計画

・平成28年度活動計画－1	27
・平成28年度稼働計画－2	32
・平成28年度予算	33

平成 27 年度活動報告— 1

I. 事業期間

平成 27 年 (2015) 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 (2016) 3 月 31 日

II. 事業の成果

主な活動成果は、以下の通り。

(1) 東京湾再生のための行動計画の指標の活用 PT (略称: 指標活用 PT) 設立。

平成 27 年 5 月 26 日 (火) 東京湾再生のための行動計画の指標の活用 PT (略称: 指標活用 PT) が設立された。

PT 長: 国土交通省国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長 岡田 知也 氏

この PT は、平成 26 年 11 月 17 日にフォーラムから東京湾再生推進会議へ初めて政策提案をした「東京湾再生のための行動計画 (第二期) の新たな指標に関する提案」について、「指標の効果的活用」のステップとして活用推進活動をおこなうものです。提案した内容を東京湾再生推進会議と歩調を合わせて政策実現するために活動していく予定。

(2) セブン-イレブン記念財団から 3 年目のご支援と、1 団体からご寄付を頂いた。

(3) 生物多様性民間参画パートナーシップへの参加

5 月 22 日に経団連会館で開催された「企業と N G O 等との交流会」に参加し、フォーラムの P R を実施。

(4) 企業と N P O 等マッチング交流会の実施

① C S R - N P O 未来交流会 & マッチングウェブでの情報提供

平成 27 年 7 月 16 日 (木)、行政、市民、企業、N P O などのマッチング事例紹介、参加団体の環境関連活動紹介などを行い、新しいマッチングの交流の場を提供。また、ポータルサイトにより、さまざまな団体の活動情報を提供し交流のサポートを開始。

② 企業・行政等施設見学会の実施

平成 27 年 12 月 10 日 (木) 施設見学会を開催。東京港中央防波堤内側埋立地/海の森プロジェクトおよびリトルターン・プロジェクト・東京都大田区昭和島/森ヶ崎水再生センター (協力: 東京都港湾局、東京都下水道局、東京都下水道サービス (株) N P O 法人樹木・環境ネットワーク協会、N P O 法人リトルターン・プロジェクト)

(5) フォーラム第 3 回通常総会が、10 月 24 日 (土) 横浜赤レンガ倉庫で開催。

(6) 東京湾大感謝祭 10 月 24 日 (土)、25 日 (日)、横浜赤レンガ倉庫で開催。

- ・新たに東京湾大感謝祭実行委員会組織を編成し、東京湾大感謝祭 2015 の実施。
- ・天候に恵まれて 2 日間で 8 万 8,000 人の来場実績。
- ・東京湾大感謝祭 2014 は、平成 27 年度日本港湾協会企画賞受賞 (公社) 日本港湾協会 第 88 回総会が平成 27 年 5 月 27 日 (水)、清水文化会館 (静岡県静岡市) で開催され、同会企画賞授与。

(7) 平成 28 年 2 月 4 日 (木) 14:00~17:30 TEPIA ホール「国連生物多様性の 10 年・中間年フォーラム~生物多様性の主流化に向けたライフスタイルの転換のために~」に出席し、認定連携事業の「認定証」を受ける。

(8) 生き物生息場づくり P T からの政策提案手交

平成 28 年 2 月 18 日、東京湾再生官民連携フォーラム発足以来 2 つ目となる政策提案書を東京湾再生推進会議に提出。来議長より東京湾再生推進会議幹事長・モニタリング分科会主査 海上保安庁総務部・山本博之 参事官に手交する。

この提案は、平成 27 年 10 月 24 日の第 3 回フォーラム総会で承認された政策提案で、東京湾再生行動計画(第二期)に活用すべき「生き物生息場づくり(マコガレイ産卵場を再生するため等)」に関する提案。フォーラム内に設けられた「生き物生息場づくり PT」(PT 長:東京大学大学院新領域創成科学科 佐々木教授)のもと、官民学の 35 人の作業・討論の約 2 年間にわたる積み重ねの成果が提案のベースになっている。

(9) 東京湾浅瀬再生実験 P T と東京湾の窓 P T 設立

新 P T 設立申請があり、平成 28 年 3 月 17 日の第 4 回企画運営委員会において 2 つの P T の設立が承認された。

i 東京湾浅瀬再生実験 P T 長: (株) つり人社 代表取締役会長 鈴木 康友 氏

この P T は、東京湾浅瀬再生実験 P T のチャレンジは、すでに役目を果たしている老朽化した直立護岸を浅瀬に再利用する実証実験です。浅瀬は生きものにとり貴重な存在です。自然環境の側面からのアプローチを市民と一緒に検証する実践的な行動が期待できます。

ii 東京湾の窓 P T 長: 谷津野寫フーズ・パートナーズ 達也 氏

東京湾の窓 P T は、“窓が開かれたきっかけ”をイメージし、大都市圏・東京湾流域の市民と東京湾を結びつけるために、東京湾の保全をめざす施設や団体がその窓により協力連携を図ることを指しています。P T 活動が東京湾の文化資源を取り込み活用しながら、各施設との連携を試み、教材となるすばらしいコンテンツを作り出していくチャレンジとなります。

Ⅲ. 事業実施経過

(開催経過)

◆東京湾再生官民連携フォーラム 平成 27 年度第 1 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 27 年 5 月 26 日 (火) 13:00~14:45
2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門 SQUARE
所在地: 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-10 名和ビル 4 F

3. 議事

◀審議事項▶

- (1) 平成 26 年度活動報告(案)及び決算(案)について
- (2) 平成 27 年度事業計画、予算(案)について
- (3) 新 P T 設立申請について
- (4) 東京湾大感謝祭 2015 実行委員会との覚書について

◀報告事項▶

- (1) CSR-NPO 未来交流会(マッチング)及びポータルサイトについて
- (2) 生物多様性民間参画パートナーシップへの参加について
- (3) 東京湾大感謝祭 2014 平成 27 年度日本港湾協会企画賞受賞報告
- (4) 東京湾再生のための行動計画(第二期)への指標提案について
- (5) ISO14001、環境マネジメントシステム国際規格の改定について
- (6) その他(平成 27 年度 P T 活動状況)

◆東京湾再生官民連携フォーラム 平成 27 年度第 2 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 27 年 7 月 31 日 (金) 10:00~11:30
2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門ヒルズフロント店 小ホール

所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-22-14 ミツヤ虎ノ門ビル 5 F

3. 議事

《審議事項》

- (1) 生き物生息場づくり P T 政策提案について
- (2) 平成 27 年度フォーラム総会議事次第（案）について

《報告事項》

- (1) 各 P T 平成 27 年度活動報告
- (2) C S R – N P O 未来交流会（マッチング）開催報告

◆東京湾再生官民連携フォーラム 平成 27 年度第 3 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 27 年 10 月 15 日（木）10：00～12：00

2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門 SQUARE

所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-10 名和ビル 4 F

3. 議事

《審議事項》

- (1) 平成 27 年度フォーラム総会議事次第（案）について
- (2) 生き物生息場づくり P T 政策提案について
- (3) 企業・行政等施設見学会について
- (4) 企画運営委員会委員の選任及び企画運営委員長を選出について

《報告事項》

1. 各 P T 平成 27 年度活動報告

◆東京湾再生官民連携フォーラム 平成 27 年度第 4 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 28 年 3 月 17 日 10：00～12：00

2. 開催場所 スタンダード会議室 虎ノ門ヒルズフロント店 小ホール

所在地：〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-22-14 ミツヤ虎ノ門ビル 5 F

3. 議事次第

《審議事項》

- (1) フォーラム中・長期事業計画（案）及びフォーラム平成 28 年度事業計画（案）、予算(案)について
- (2) C S R – N P O 未来交流会（マッチング）について
- (3) 企業・行政等施設見学会について
- (4) 平成 28 年度フォーラム総会開催日時及び開催場所について
- (5) フォーラムアンバサダー制度について
- (6) 新 P T 設立について

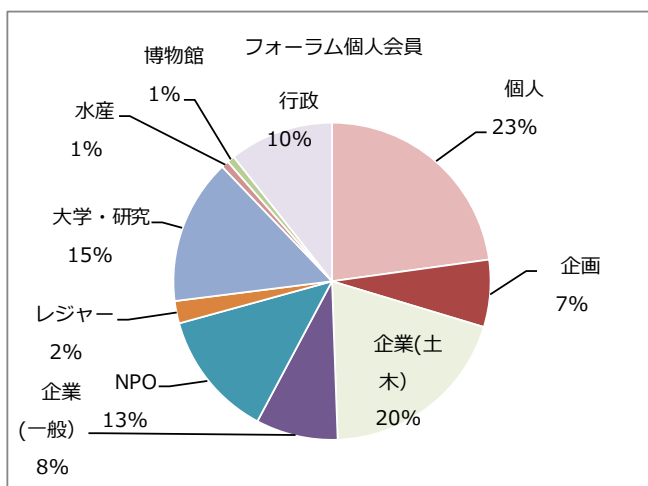
《報告事項》

- (1) セブン-イレブン記念財団との協定について（事務局報告）
- (3) フォーラム平成 27 年度事業報告（案）について（事務局報告）
- (5) 各 P T 活動報告（各 P T 長）

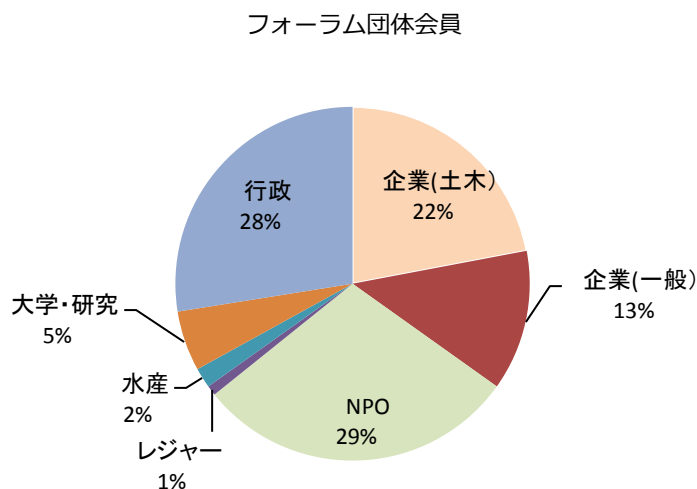
IV. 会員募集の実施 (2016.2月までの推移結果)

「東京湾再生官民連携フォーラム」(以下、フォーラムという)の趣旨に賛同し、会への参加を希望し、会員への登録を申し込んだ者。東京湾の再生にあたっては、東京湾に関わる企業、研究者、水産関係者、レジャー関係者、NPO、市民、行政等の多様な関係者が、その英知を出し合い、共に連携協働し、楽しみながら環境再生の取組をする。賛同された会員の状況は下記のとおり。(会員カウント：2016年2月8日)

フォーラム個人会員 (人、%)		
個人	60	23%
企画	18	7%
企業(土木)	52	20%
企業(一般)	22	8%
NPO	34	13%
レジャー	6	2%
大学・研究	39	15%
水産	2	1%
博物館	2	1%
行政	28	10%
合計	263	



フォーラム団体会員		
企業(土木)	24	22%
企業(一般)	14	13%
NPO	32	29%
レジャー	1	1%
水産	2	2%
大学・研究	6	5%
行政	30	28%
合計	109	



V. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成27年度通常総会

開催日時：平成27年10月24日(土) 9:30~11:30

会場：横浜赤レンガ倉庫1号館3階ホール

(神奈川県横浜市中区新港1-1-1)

出席者：会員数372(団体・個人)に対し

出席62(団体・個人)、委任状68(団体・個人)

その他団体会員等35



議事次第

1. 開会
2. 議長挨拶 東京湾再生官民連携フォーラム議長 來生 新
3. 議事
 - (1) 議題の採択
 - (2) 議事録署名人の選出
 - (3) 報告議題
 - (3) - 1 平成 26 年度活動報告及び平成 27 年度活動計画
 - ①平成 26 年度事業報告及び決算報告について
 - ②平成 27 年度事業計画及び予算について
 - (3) - 2 プロジェクトチームの活動報告
 - (3) - 3 新プロジェクトチーム設立報告
 - (3) - 4 C S R - N P O 未来交流会報告
 - (4) 審議議題
 - (4) - 1 東京湾再生推進会議への政策提案について
 - (4) - 2 役員改選について
 - (5) その他
4. 閉会

配付資料

- 資料- 1 第一号議案 平成 27 年度通常総会 議事次第 (案)
- 資料- 2 平成 26 年度活動報告及び平成 27 年度活動計画
- 資料- 3 プロジェクトチーム活動報告
- 資料- 4 P T 設立ステップフロー
- 資料- 5 新プロジェクトチーム活動計画
- 資料- 6 C S R - N P O 未来交流会報告
- 資料- 7 第二号議案 東京湾再生推進会議への政策提案について
- 資料- 8 第三号議案 役員の改選
- 参考資料- 1 東京湾再生推進会議への政策提案手順
- 参考資料- 2 生き物生息場づくり P T 政策提案の意見照会に対する意見と対応

【議長挨拶】 東京湾再生官民連携フォーラム議長 來生 新

設立から異なる立場の主体のかみ合わせが難しく、3 年の継続的な活動は大きな意味をもっています。政策提案もその結果であり、大感謝祭も規模も大きくなり成果が出てきています。これを第一段階のロケットで今日からの活動は、第二弾のロケットになります。それをいかに加速していくかということになります。事務局主導で企業と N P O をマッチングする未来交流会を実施しました。

第二段階の大きな課題は、今までは官対民の論理をいかに組み合わせるかでしたが、さらに一歩進んで民の中で持続的な経済力を発揮する企業と企業以外の N P O などをいかに組み合わせるのか。企業も C S R などの活動行っていますが、ある意味で自然の論理の中で環境の改善に社会的意義のある活動をどのようにうまく参加をしていただけるような知恵、工夫ができるか、官とさまざま民が一体となっているこういう組織体の、しかも自由な議論と

自由な活動ができることが、大きな責務ではないかと考えています。まく離陸ができたことを前提で、いかに加速ができることが今後のフォーラム活動の数年間の大きな課題となります。いろいろの立場の方が、自由に参加して手弁当で活動していく組織がますます社会的に大きな力を発揮できることをみなさまにお願いいたします。

【議事概要】

フォーラム設置要綱に則り、資料—1、議事次第（案）が総会の議事として承認された。次第に則り議事録署名人として矢木浩二 様（東洋建設（株））、井芹絵里奈 様（国土技術政策総合研究所）が選任された。その後平成26年度活動報告及び平成27年度活動計画、プロジェクトチームの活動報告、新プロジェクトチーム設立報告が行われた。また、フォーラムから2つ目の政策提案となる、生き物生息場づくりに関する東京湾再生推進会議への政策提案について審議がなされました。生き物生息場づくり PT 長からの提案説明後、質疑・応答が行われ、原案通り承認された。

フォーラム役員の改選が行われ、フォーラム議長には、來生 新 様（放送大学副学長）が再任され、監事には、風呂田利夫 様（東邦大学名誉教授）が再任され、大浦佳代 様（海と漁の体験研究所代表）が新しく選任されました。

VI. CSR – NPO未来交流会

<開催概要>

開催日時：2015年7月16日（木） 13:00～16:30

開催場所：東京都千代田区内幸町 2-1-1

イイノカンファレンスセンター4F A ルーム

参加団体：27 団体



來生議長 ご挨拶

交流会に先立ち、NPO 海辺づくり研究会：『美しく豊かな東京湾をめぐって』の講演がおこなわれました。

続いて、株式会社 高千穂：東京湾UMIプロジェクトに参加するまで』と具体的な企業活動をご紹介いただきました。

運河を美しくする会のご紹介（代表幹事 東京ガス（株））では、『芝浦地区天王洲周辺への運河を中心として』、都市と人と組織を中心にその生い立ちと取組経過を解説いただきました。

認定NPO法人 共存の森ネットワークは、『海を活かし、森をつくり、人をつくり、人を育てる』をテーマに、環境と人との関係、その叡智を取り上げ、海の森づくりの具体的な活動をご紹介いただきました。

交流会では、都合テーブルを囲んで3チームに編成して、活発な議論と紹介が行われました。あっという間の時間経過で、さらに深めた交流が期待できました。

。

開催内容 (プログラム)		
時間	内容	発表
13:00	開会/交流会説明	事務局
13:05	挨拶	フォーラム議長
13:10	講演-1	NPO 海辺つくり研究会
	企業CSRとマッチングについて	
13:30	講演-2	株式会社 高千穂 (UMIプロジェクト)
	マッチング事例 (企業)	
13:50	講演-3	東京ガス 株式会社 (運河を美しくする会代表幹事)
	マッチング事例 (企業)	
14:10	講演-4	認定NPO法人 共存の森ネットワーク
	マッチング事例 (NPO)	
14:30	<休憩>	
14:40	アイスブレイク&交流会説明 事務局	事務局
14:45	交流会: 参加組織・企業×NPO (質疑応答含む)	交流 組み合わせ
		(情報交換相手を随時交代し実施)
16:30	閉会	事務局

CSR-NPO未来交流会 参加団体活動紹介

順不同

	団 体 名	活 動 紹 介
①	東京都港湾局	東京港は物流だけでなく、東京にとって貴重な空間である埋立地を利用して、東京の都市構造の再編や都民の活力と潤いのある生活に寄与するために、産業基盤としての機能、生活基盤としての機能及びレクリエーションの場としての機能などを果たしています。 当局の事業は、東京港の管理運営、振興及び港湾施設の整備並びに埋立地の造成、整備、開発事業です。
②	昭和シェル石油株式会社	生物多様性についての取り組み。当社は生物多様性の保護に関する基本方針として「バイオダイバーシティに関する基本方針」を定め、経団連生物多様性宣言に賛同するとともに、公益財団法人日本自然保護協議会への寄付を実施するなど、生態系保護の重要性を認識し活動に取り組んできました。
③	経団連自然保護協議会	経団連自然保護協議会は、地球サミット(環境と開発に関する国連会議)がブラジルのリオデジャネイロで開催された1992年に設立され、経団連の会員企業のうち、自然保護や生物多様性の保全に積極的に取り組んでいる116社が参画しています。現在、「経団連自然保護基金によるプロジェクト支援」、「企業とNGOの交流推進」、「企業への啓発活動」及び「自然再生を通じた東北復興」の4つに重点を置いて活動しています。
④	公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーン ランド財団	公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団(B&G財団)は、青い海と緑の大地を活動の場として、次代を担う青少年の健全育成をはじめ、幼児から高齢者までの“心とからだの健康づくり”を推進するため、ボートレースの収益金によって艇庫、プール、体育館からなる海洋センターを全国480市町村に建設し、地元自治体に無償譲渡してきました。

		現在、全国の海洋センターで年間 1,000 万人以上の利用者が様々な活動に励んでいます。
⑤	日本エヌ・シー・エイチ株式会社	日本エヌ・シー・エイチ株式会社はアメリカ・テキサス州・ダラスに本社がある設備・機械のメンテナンス製品の製造・販売をしている日本法人です。 弊社は 2004 年に ISO14001 を取得し、メンテナンスによる省エネ・節電・節水に貢献できるプログラムをご紹介しております。他のアジア諸国の弊社法人では積極的な CSR 活動を展開していますが日本法人ではまだ取り組めてないので今回の交流会に参加させていただき、勉強させていただきたいと思っております。
⑥	三井化学株式会社	当社グループでは、日頃の事業活動において生物多様性に配慮した取り組みを進めていますが、環境保全の取り組みは生物多様性と密接に関係しており、当社グループは特に化学品の安全性の確保や管理など従来に増して取り組んでいきます。また、関係会社においても、植樹や多様な生き物が住みやすいような環境づくりとして清掃活動などにも取り組んでいます。また、2010 年 1 月 22 日、日本経済団体連合会（以下、経団連）「生物多様性宣言推進パートナーズ」に参加しました。
⑦	一般社団法人 葛西臨海・環境教育フォーラム	現段階では葛西臨海公園を環境教育・防災教育の拠点に育てるという目標を持っているが、将来的にはより大きく「持続可能な社会づくりのために、広く国民一般に対して様々な ESD(持続可能な開発のための教育)活動を実施する」としている。
⑧	NPO 法人千葉自然学校	千葉県内で里海、里山を舞台とした自然体験プログラムを企画運営する NPO 法人です。千葉県や南房総市の自然公園や少年自然の家を指定管理者として運営しています。これらの利用者は年間 10 万人。磯の生き物発見ツアーなど東京湾の生きものたちと触れ合うプログラムが大人気。プログラムを通じて山と海のつながり、人と自然のつながりを感じる学びを大切にしています。
⑨	関東学院大学／中津研究室	当研究室は『ランドスケープデザイン』に関する研究や設計を実施しています。建築以外の外部空間を取り扱うことが基本ですが、『環境デザイン学』の観点から建築を捉える場合に限り、建築的テーマも指導対象とすることがあります。環境デザイン学とは、「人間とその周囲のあらゆるスケールの物理的環境の相互関係を研究し、生活の質的向上を目指し計画デザインすること」です。
⑩	横浜市立大学	横浜市立大学では、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」で採択された教員地域貢献活動支援事業として、「ブルーカーボン横浜プラットフォーム」をテーマに、海水浴やトライアスロンなど海域の利用形態も視野に入れた海域環境改善について、企業や自治体環境部局等と連携し調査研究、地球温暖化対策に配慮した取り組みを行っています。
⑪	NPO 法人海辺づくり研究会	私たちは、沿岸域環境の保全・再生・創出や自然と共生する海辺づくりに関する事業を、先人の知恵や多くの市民の新しい知恵に学びながら、積極的に推進し、地域の振興や地球環境の保全に貢献することを目的に活動しています。
⑫	NPO 法人 東京港グリーンボランティア	大田区東海にある都立東京港野鳥公園は、運河に接する人工干潟に接している。この干潟には 10 種類ほどのカニが生息し、貝類もさまざまなものが観察できる。当会は、干潟に浸出するヨシを刈り、漂着ゴミを除去して生息域の保全を行いつつ、年に 15 回ほどの観察会を通じて海浜の価値を市民に伝えている。また近隣のふるさとの浜辺公園にある「海苔の博物館」とも協力して海辺の生き物の観察会を実施している。なお、当会は、陸地部分についての同種の活動も並行して行っている。

	団 体 名	活 動 紹 介
⑬	NPO 法人 海の森づくり(海森会横浜)	「国土の十数倍(約 450 万 km ²) に及ぶ日本の 200 海里排他的経済水域は、我が国が“海”の環境や水産資源を維持・保全する責務を負う水域である。」と考え、『海の森づくり』から得られる素晴らしい財産を漁業者は基より、農業者・林業者・都市市民と共有し、その適切な利用を通して海と森と里と都市を結ぶ循環型地域づくりや食料の安定供給・自給率の向上に寄与していきます。また、水産増殖並びに環境対策や持続可能なまちづくり対策の有力な技術の一つとして、私たちは『コンブ等海藻による海の森づくり』の輪を世界に広げて行きます。
⑭	江東エコリーダーの会	江東エコリーダーの会は 2001 年に江東区役所が開催した「エコリーダー養成講座」(以後毎年開催)の修了生有志による OB 会が発展的に組織化された会で、都市の自然環境の再生! を活動テーマとして 2007 年にスタートしました。(現在会員数は 50 数名) 江東区のみどり・水辺(河川・海辺)をフィールドとして豊かな都市の自然環境の再生活動に参加してきました。特に江東区が接する東京湾は現在は垂直岸壁ばかりのとんでもない海辺になっております。干潟・砂浜・磯浜の再生は私たちが未来に残す財産として実現を願っております。
⑮	浦安三番瀬を大切にする会	1999 年より市民発で浦安市と協働して実施してきました、浦安三番瀬クリーンアップ大作戦実行委員会の有志が 2003 年に団体を設立しました。現在、実行委員会の事務局を担当しています。毎月第 1 日曜日にミニクリーンアップ実施を継続して、「ひがたハンドブック」の発行や環境学習を実施しながら、海岸線の市民利用とルールについて浦安市と検討しています。
⑯	浦安水辺の会	三方を海と川に囲まれた水辺のまち・浦安でふるさとの水辺を大切にする市民が増えるように 2004 年に設立しました。市民に身近な川・境川でリバーウォークを実施したり、親子ハゼ釣り教室を開催して、安全な川の市民利用を推進しています。利根川・江戸川流域の市民・企業・行政に協力をいただきながら、E ボートで 150km を下りました。毎年カフェラスイイベントで E ボートの体験乗船や千葉の仲間と E ボート千葉大会も開催しています。
⑰	公益財団法人 日本自然保護協会	日本自然保護協会の活動の特徴は、自然を楽しみながら知って、自然を調べ守る力や守った自然をもっとよくなる力につなげていくことです。日本の自然を半世紀以上見つめ、自然のしくみを尊重する社会づくりを目指しています。
⑱	認定 NPO 法人 ふるさと東京を考える実行委員会	私達は「子供たちの泳げる東京湾の再生」を目指し 40 年近くに亘って活動しており、2012 年に地元江戸川区の葛西海浜公園で約 50 年ぶりに海水浴を復活させ、東京都の設置していた「遊泳禁止」看板を「許可なく遊泳禁止」と改めさせ、2014 年 12 月には「東京都長期ビジョン」に「2016 年から葛西海浜公園で海水浴を実施する」ことを明記させ、本年度は東京都と共に海水浴社会実験を実施します。
⑲	八千代エンジニアリング株式会社	八千代エンジニアリング(株)は横浜市立大学と文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」で採択された教員地域貢献活動支援事業に共同研究事業者として参画しており、「ブルーカーボン横浜プラットフォーム」をテーマに、海水浴やトリアスロンなど海域の利用形態も視野に入れた海域環境改善について調査研究、地球温暖化対策に配慮した取組みを行っております。

CSR-NPO 未来交流会 施設見学

- 1) 海の森プロジェクト事例
- 2) リトルターン・プロジェクト事例

12月10日(木) フォーラム活動として「企業・行政等施設見学会」を開催しました。施設見学は、東京湾の環境改善や環境再生施設などを訪問して、東京湾再生のためのノウハウの共有や現在の東京湾での活動施設の事例をさまざまな立場の方の目で見ることによって情報共有を図り今後の活動の参考として頂くフォーラム交流活動の一つです。

当日は沿岸の公共施設の管理や公共プロジェクト事業へ NPO 等が参加協働している事例を実際に見ることができました。見学会は、事務局も含め 24 名の参加となりました。

東京都「海の森プロジェクト」と「東京都森ヶ崎水再生センター」を見学し、森ヶ崎水再生センターでは、「リトルターン・プロジェクト」の野鳥営巣地施設もを見せていただきました。

見学会では、東京都港湾局臨海開発部海上公園課、NPO 法人 樹木・環境ネットワーク協会の皆様に協力を頂きました。

【海の森プロジェクト事例】



↑東京都港湾局臨海開発部 海上公園課 高遠様からの説明



造成の最盛期です

【リトルターン・プロジェクト事例】

コアジサシの営巣地



水たまりに見えるのは、コアジサシのふ化の際、なるべく卵から離れる時間を短時間にするための工夫の池(親鳥が水を使い卵の温度を調整し冷やすのに利用、水は再生処理水)

写真提供：<http://littletern.net/>より 絶滅危惧Ⅱ類

1. 開催日時：平成 27 年 12 月 10 日（木）13：00～17：30
2. 開催場所：東京港中央防波堤内側埋立地／海の森プロジェクトおよび
東京都大田区昭和島／森ヶ崎水再生センター
3. 主催：東京湾再生官民連携フォーラム 事務局
4. 協力：東京都港湾局、東京都下水道局、東京都下水道サービス（株）
NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会、NPO 法人リトルターン・プロジェクト
5. プログラム
13：00 ～ 13：10 東京テレポート駅前 集合／受付（参加費徴収 300 円／人）
13：10 ～ 13：40 移動（マイクロバス：20 分～30 分）
13：40 ～ 14：30 東京港中央防波堤内側埋立地
（東京都江東区青海 3 丁目地先）
【海の森プロジェクト 説明及び見学】 50 分
14：30 ～ 15：10 移動（マイクロバス：30 分～40 分）
15：10 ～ 16：40 東京都大田区昭和島 2-5-1
【森ヶ崎水再生センター説明及び見学】 90 分
・野鳥営巣地 説明＋見学 （20 分）
・徒歩移動（東施設 → 西施設 10 分）
・水再生センター 西施設 説明＋見学 （50 分）
・徒歩移動（西施設 → 東施設 10 分）
16：40 ～ 17：30 移動（マイクロバス：東京モノレール 昭和島駅経由）
50 分～60 分
17：30 品川駅 解散

Ⅶ. 政策提案・「生き物生息場づくり」に関する提案書

フォーラムから東京湾再生推進会議へ2つ目の政策提案をしました。

今回の提案内容は、10年スケールで官民が連携して取り組むべき生き物生息場づくりの基本的な考え方及び進め方についての提案、およびその具体的な施策の一つとして、マコガレイ産卵場の底質改善に関する提案となっています。

2016年2月18日、提案書は、霞が関の海上保安庁参事官室において、東京湾再生官民連携フォーラム・来生新議長から、東京湾再生推進会議幹事長・モニタリング分科会主査 海上保安庁総務部・山本博之 参事官に手渡されました。来生議長からは、官民が様々議論した結果なので十分にご検討いただきたい旨の要望が述べられ、山本参事官からは、貴重な提案なので大事に考えてゆきたい旨の回答が述べられました。



海上保安庁参事官室で提案書をお渡しする来生議長(左側)と、受け取る山本参事官(右側)

この提案は、昨年10月24日に横浜・赤レンガ倉庫1号館にて開催された第3回フォーラム総会で承認された政策提案で、東京湾再生行動計画(第二期)に活用すべき「生き物生息場づくり」に関する提案です。フォーラム内に設けられた「生き物生息場づくりPT」(PT長：東京大学大学院新領域創成科学科 佐々木教授)のもと、官民学の35人の作業・討論の約2年間にわたる積み重ねの成果が提案のベースになっています。

Ⅷ. プロジェクトチームの活動状況

◇モニタリングPT (PT長 横浜国立大学 客員教授 古川 恵太)

平成27年度

「アサリわくわく調査」 人工干潟「潮彩の渚」にて江戸前アサリ「わくわく調査」の実施など
東京湾環境マップの発行、PTメンバーへの配布

1月～2月：マップ印刷

3月：PTメンバーへの配布

◇生き物生息場づくりPT (PT長 東京大学大学院 教授 佐々木 淳)

第4回PT幹事会 6月17日(水)

1. 生き物生息場づくりの理念について
2. マコガレイ再興プロジェクト提案について
3. 他のプロジェクト提案について
4. 行政側で検討されているプロジェクトについて
5. フォーラムにおける提案書の準備及び将来検討について

第5回PT会議 7月15日(水)

1. 生き物生息場づくりの理念について
2. マコガレイ再興プロジェクト提案について
3. 他のプロジェクト提案について
4. 行政側で検討されているプロジェクトについて

5. フォーラムにおける提案書の準備及び将来検討について

第5回 PT 幹事会 8月31日(月)

1. 提案に向けた今後のスケジュール
2. 提案書(案)について
3. 補足説明資料「生き物生息場づくりの理念」案について
4. 補足説明資料「マコガレイ再興プロジェクト提案」について

第6回 PT 会議 10月8日(木) 政策提案に向けての最終段階

1. 提案書案及び回覧意見への対応案について
2. 補足説明資料「長期的視点と留意事項」案について
3. 補足説明資料「マコガレイ」案について
4. 今後のスケジュールについて

■新会員の募集の実施(第2期 生き物生息場づくり PT)

◇指標活用 PT (PT長 国土交通省国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長 岡田 知也)

第1回 指標活用 PT : 平成27年9月8日(火)

1. PT長挨拶、メンバー紹介
2. 指標活用 PT について
3. WG について
4. 今後について

第1回 指標活用 PT サブ WG : 平成27年11月18日(水)

1. PT が扱う指標項目について
2. 市民活動のデータの取得方法について

第1回 指標活用 PT : 12月8日(火)

1. 指標活用 PT で取り扱う指標について
2. WG について

・市民活動データの収集方法について

PTにおいて、下記の3つのWGを作り、活動していくことが決まりました。

- ①市民データ収集 WG
- ②データの整理・評価サポート WG
- ③情報交流プラットフォーム WG (来年度から)

第1回 指標活用 PT 市民データ活用 WG : 平成28年2月16日(火)

1. 市民データの具体的な収集方法についての方向性の議論
- ・WGのスケジュール感

◇東京湾大感謝祭 PT (PT長 NPO 法人海辺づくり研究会 理事・事務局長 木村 尚)

東京湾大感謝祭2015開催につき、新たにPT内に田久保氏を実行委員長として、「実行委員会」組織を設定、月ごとに実行委員会を開催し、準備を行う。

感謝祭2015 : 開催3日間で、8万8000人の来訪者

◇パブリックアクセス方策・検討 PT (PT長 NPO 法人 横浜創造まちづくり学会 会長 竹口 秀夫)

第1回 パブリックアクセス PT 平成 27 年 4 月 10 日 (金)

1. 報告事項

- ・東京湾再生官民連携フォーラム平成 27 年度事業計画
- ・当会の平成 26 年度実績報告
- ・東京湾大感謝祭 2015

2. 協議事項

- ・当 PT 平成 27 年度事業計画について
- ・視点場の設定先について
- ・視点場のインフラについて
- ・その他 海上ルートの調査方法について

第2回 パブリックアクセス PT 平成 27 年 6 月 25 日 (木)

1. 報告事項

- ・東京湾再生官民連携フォーラム平成 26 年度事業報告
- ・「東京湾再生のための行動計画の指標の活用 PT」の設置

2. 協議事項

- ・視点場等で提供する情報について
- ・モデルコースの設定について

第3回 パブリックアクセス PT 平成 27 年 8 月 24 日 (月)

1. 東京湾再生官民連携フォーラム第2回企画運営委員会について

2. 東京湾パブリックアクセス方策検討 PT 中間報告について

第4回 パブリックアクセス PT 平成 27 年 11 月 16 日 (月)

1. 報告事項

- ・新チーム員の紹介
- ・第3回企画運営委員会
- ・東京湾再生官民連携フォーラム総会
- ・東京湾大感謝祭 2015

2. 協議事項

- ・東京湾パブリックアクセス方策検討 PT に対するメンバーの意見と対応
- ・情報提供手段について

第5回 パブリックアクセス PT 平成 27 年 12 月 21 日 (月)

1. 報告事項

- ・企業・行政等施設見学会

2. プレゼンテーション

3. 協議事項

- ・PT 中間報告の大枠について

第6回 パブリックアクセス PT 平成 28 年 2 月 25 日 (水)

1. 東京湾パブリックアクセスに関する提案 (素案) について

◇東京湾での海水浴復活の方策検討 P T

(PT 長 認定 N P O 法人ふるさと東京を考える実行委員会 理事長 関口 雄三)

第 2 回会議開催 平成 27 年 5 月 20 日

- 1.情報共有 検討題材：大阪南港事例、東京都の長期ビジョンなど
 - 2.検討課題：解決課題の討議、海水浴の啓発、政策提案について
- 江戸川区の葛西海浜公園の海に遊泳ゾーンを設置 7 月 1 8 日～8 月末の土日など計 2 0 日間、海水浴ができる環境を作る。

第 3 回会議開催 平成 27 年 9 月 16 日 (水)

- 1.本年度のお台場海浜公園の海水浴体験実施結果と課題について
- 2.本年度の葛西海浜公園での海水浴社会実験結果と課題について
- 3.東京湾の海に面する公園の調査結果について

第 4 回会議開催 平成 28 年 2 月 9 日 (火)

- 1.第 3 回 PT 議事録確認
- 2.船橋ヘルスセンターゴールデンビーチについて
- 3.PT 実施体制 (ステアリンググループ創設) について

◇江戸前ブランド育成 P T (PT 長 元水産庁漁政部加工流通課課長補佐 上田 勝彦)

総会への活動報告をおこない。現在事務局で今後の活動検討を調整中。

■フォーラムへの寄附金

東京湾再生活動にご支援いただいた赤城乳業(株)ガリガリ君に感謝

-東京湾再生官民連携フォーラム-

東京湾再生官民連携フォーラムは、去る 2016 年 1 月 21 日 (金) に、赤城乳業(株)さまへ感謝の気持ちをお伝えするため、営業本部 マーケティング部 部長 萩原史雄氏を国土交通省へ招請して、フォーラム議長・來生新から二年間にわたる寄附に関する感謝の意をお伝えし、フォーラム活動経過や今後の活動についてディスカッションを行いました。

出席メンバーは国土交通省港湾局、フォーラム議長、セブン-イレブン記念財団、フォーラム企画運営委員、フォーラム事務局です。

赤城乳業(株)さまからの寄附金は、2014 年、2015 年の 2 回に渡り行われました。フォーラム活動である東京湾の再生・エコ活動の一環として活用させていただいています。

赤城乳業(株)は水との関連も深く、毎年さまざまな新商品を提供しています。萩原氏は、ガリガリ君のスティックの木質部分と本体のアイスの部分の水で、社会貢献活動を行いさらにさまざまな模索、アイデア創造を図っています。

フォーラムは 3 年間で経過し、全体としてまとまりはじめ、東京湾を中心に官と民との連携を図ってきました。さらに昨年からは、多様な組織・団体との交流を深め東京湾への関心・環境認識を高める活動に力を注いでいます。

これを機に未来に向けてガリガリ君と東京湾 (江戸前) のコラボができれば、さらに新しい発展の形が見えてくると期待が高まります。



感謝状を贈呈



来生議長（左側）

赤城乳業(株)萩原部長（右側）

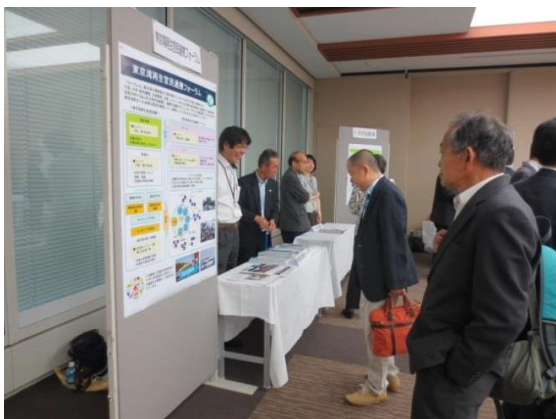
■ 広報活動 / 交流会参加

1. 経団連自然保護協議会「企業とNGO等との交流会」

■開催日時：平成 27 年 5 月 22 日

フォーラムは、経団連自然保護協議会の「生物多様性民間参画パートナーシップ」に登録し、5月22日に経団連会館で開催された「企業とNGO等との交流会」に参加し、フォーラムのPR、フォーラムが主催する交流会のPR、東京湾大感謝祭のPRなどを行いました

- (1) 開催場所経団連会館4階402号室
- (2) 交流会参加団体
- (3) NGO等11団体 自治体1団体 企業3団体
- (4) 交流会来場者約120名



2. 東京湾再生官民連携フォーラムのUNDB-J認定連携事業の表彰式に参列しワークショップに参加

平成 28 年 2 月 4 日 (木)、会場：TEPIA ホール（東京都港区北青山 2-8-44）において国連生物多様性の 10 年・中間年フォーラムにおいて、2014 年 3 月「UNDB-J 認定連携事業」の表彰式に参列しました。

認定証（写真）を授与されましたことをご知らせ致します。合わせて、今後の活動についての議論のワークショ

ップに参加いたしました。

以下、簡単に中間年フォーラムの議論項目をご紹介します。

H27.9UNDB-J 幹事会での議論結果から「ライフスタイルの 転換」が重要なキーワードとなることを受けて、去る、2016 年 2 月 4 日（2020 年までの 5 年間に行うべき具体的な活動・連携（プロジェクト）を議論・共有し、UNDB-J の ロードマップの案とすることを目的とした会議に参加しました。参加団体は、UNDB-J 委員、認定連携事業認定団体、UNDB-J の貢献団体です。

生物多様性の主流化がなされた目指すべき社会に向けて、「ライフスタイルの転換」のために、「消費活動」、「自然とのふれ合い」、「まちづくり」の観点から、昨年のフォーラムで議論した各セクターの果たすべき 役割を認識した上で、グループごとの討議が行われ最後総合討議に移りました。フォーラムでは、テーマ⑤：生物多様性にあふれる都市空間の創造に参加し、海との関わり方、海上公園や海の生き物（例えば、あさり）などの調査の実施をあげ、森に関する興味関心ごとを海（東京湾）にも向ける必要性をご紹介しますました。



3. 東京湾大感謝祭開催概要

- 催事名：東京湾大感謝祭 2015
- 会期：2015 年 10 月 23 日（金）～25 日（日） 10：00～17：00
※23 日（金）は午後より東京湾シンポジウムのみ
- 会場：横浜赤レンガ倉庫（広場・1 号館 3F ホール）
横浜赤レンガ倉庫周辺海上（象の鼻栈橋、赤レンガパーク、運河パーク）
- 主催：東京湾大感謝祭実行委員会
- 共催：国土交通省関東地方整備局、東京湾再生官民連携フォーラム、（一財）みなと総合研究財団、東京湾の環境をよくするために行動する会、横浜港ポート天国推進連絡協議会
- 後援：東京湾再生推進会議、環境省、海上保安庁、水産庁、国土交通省関東運輸局、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、横須賀市、横浜港運協会（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー、（一社）横浜港振興協会、横浜エフエム放送（株）、経団連自然保護協議会
- 協力：（一財）セブン-イレブン記念財団、（公社）日本海洋少年団連盟、（公財）東京動物園協会葛西臨海水族園、（公財）日本釣振興会、（一社）ウォーターフロント協会、（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会、横浜港ポート天国実行委員会、京浜フェリーボート（株）、（株）横浜八景島、UMI 協議会、マリンジャーナリスト会議、（公社）落語芸術協会、日本釣りジャーナリスト協議会、横浜ベイサイドマリーナ（株）、（株）ケーエムシーコーポレーション、都漁連内湾釣魚協議会、東京湾遊漁船業協同組合、千葉県漁業協同組合連合会、神奈川県漁業協同組合連合会、（株）ポートサービス、大森海苔のふるさと館、金沢八景-東京湾アマモ場再生会議、横浜 SUP 倶楽部、（株）つり人社、（株）舵社、（公財）ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、NPO 法人日本ビーチ文化振興協会、NPO 法人海辺つくり研究会、ハマの海を想う会
- 協賛：（株）アスカ、（株）エコー、（株）カーニバル・ジャパン、（株）クルー・エレテック、国土交通省港湾局有志一同、（株）コスモ企画、親和興業（株）、（株）スリービー、全国農業協同組合連合会、（株）中村住

装、西尾レントオール（株）、日本工営（株）、（株）パスコ、（株）ミキ・ツーリスト、リビングワークス（株）

■プレス取材

東京湾大感謝祭 2015 は会期中、以下のマスコミ各社より取材いただきました。

放送媒体：NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日

新聞媒体：朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞、神奈川新聞社、西日本新聞社、港湾新聞社、港湾空港タイムズ、

通信社：共同通信社、時事通信社

雑誌媒体：つり人社 つり情報社、舵社

◇東京湾大感謝祭 2015 実行委員会メンバー

	役割	氏名
1	委員長	田久保 雅己
2	PT長	木村 尚
3	研究・WSWG	岡田 知也
4	釣りWG	鈴木 康友
5	海上WG	中村 貢
6	監事	遠藤 卓男
7		宮島 一晃
8	食WG	三上 己紀
9	展示WG	三橋 和也
10	ステージWG	森山 利也
11	地域連携WG	寺元 敏光
12	食WG アドバイザー	佐藤 寛治

	役割	氏名
13	ライフスタイルWG	阿部 芳久
14	広報WG	寺沢 たかし
15		中原 正顕
16		保坂 行輝
17		鈴木 崇弘
18		近藤 隆道
19		岡島 達男
20		佐藤 勇二
21		林 総
22		間瀬 範幸
23		中島 正雄
24	事務局長	吉野 生也

■出展者

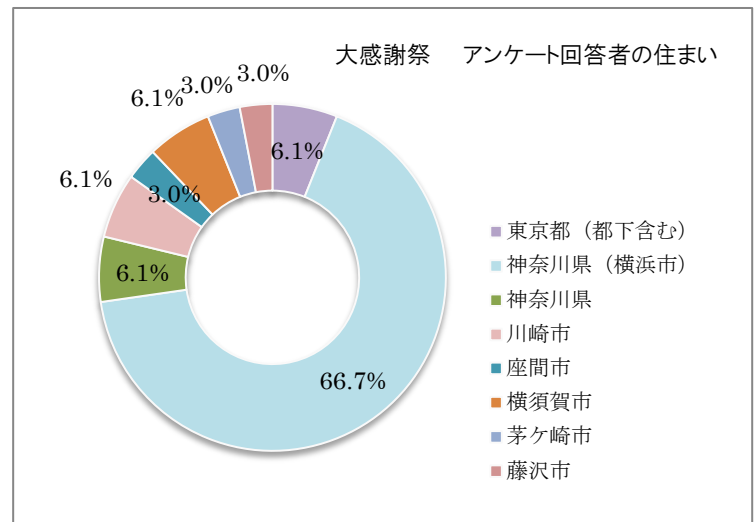
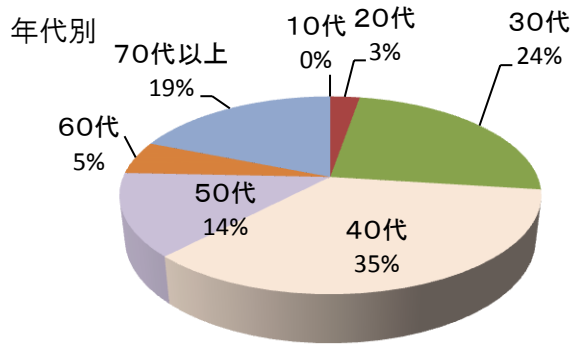
東京湾大感謝祭2015 広場出展者	
■広場出展 : 56小間/51社・団体	箱根町観光協会
横浜市	大地を守る会 おさかな喰楽部
水産総合研究センター	遠忠食品 本店
東京海洋大学	鳩屋海苔店
ヤマハマリンクラブ・シースタイル&ヤマハポート教室	神奈川クッキングサービスセンター
シマノ	花いちりん
マルキュー	喜作
環境省	クラウンスター
スカパーJSAT	いちや
プリンセス・クルーズ	
港湾空港技術研究所	平戸市ふるさと納税大感謝祭
国土交通省関東地方整備局	■広場出展・特別コラボ企画 : 17小間/20社・団体
ハマの海を想う会	田舎暮らし相談コーナー・観光案内コーナー
船舶免許登録教習所 マリンライセンスロイヤル	ふるさと納税体験コーナー
いであ	ふるさとチョイス
五洋建設	長田食品/きのご屋
本間組	萩原食肉産業/伊東蒲鉾店
新日鐵住金	福田酒造/ISOLA
東亜建設工業	ひらど新鮮市場/めぐみ屋
東洋建設	白石蒲鉾店/森崎水産
大本組	平戸路の蔵元 森酒造場/松永水産
若築建設	平戸瀬戸市場/平戸口吉善商店
オリエンタル白石	料亭「彩月庵」/篠崎海産物店
りんかい日産建設	平戸瀬戸市場
東京都葛西臨海水族園 移動水族園	松永水産
不動テトラ	佐川急便
みらい建設工業	ストックヤード
JFEスチール	■ 1号館3階出展 : 15小間/16社・団体
横浜みなとみらい21	海上保安庁
クレディセゾン	大森 海苔のふるさと館
三洋テクノマリン	海を活かしたまちづくりコンペ入選作品
あおみ建設	あらくさ句会
ロイヤル・カリビアン・インターナショナル/セレブリティ・クルーズ	P&H MIRAI企画
ダイワ(グローブライド)	東京湾岸自治体環境保全会議
日本釣振興会	海辺つくり研究会×東京湾パフォーマンスユニット
	海の生きものを形にしよう(金沢八景-東京湾アマモ場再生会議、東京湾の環境をよくするために行動する会)
つり人社	出張!うみてん
東京湾大感謝2015 本部テント	
おうちCO-OP	日本水中科学協会
秩父市・さいたま市	半魚人倶楽部
ゆる党	海藻おしば協会
FOODPIT	写真家 福井あゆみ
東京湾フェリーで行く南房総・横須賀	画家 浜中せつお
横浜市漁業協同組合	千葉透明骨格標本研究所

■参考資料：東京湾大感謝祭 2015 開催会場アンケート結果

会場内（赤レンガ 広場）調査対象：来場者において簡単なアンケートを実施 2015 年 10 月 25 日(日)

基本情報（FACE） アンケート回収総数：49通

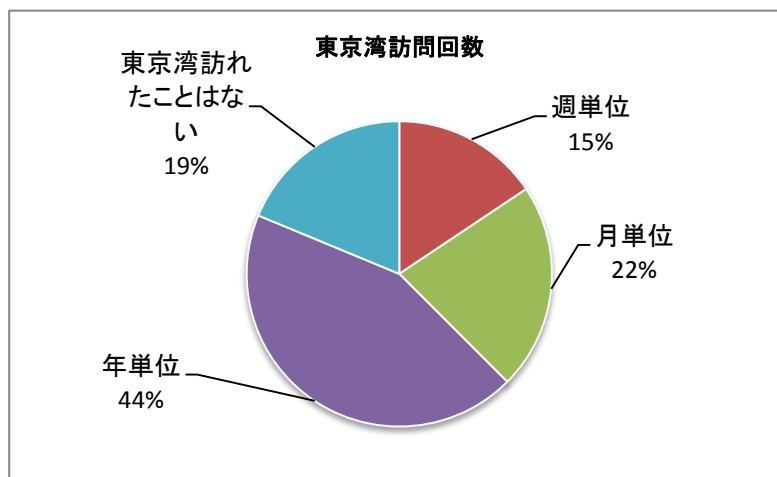
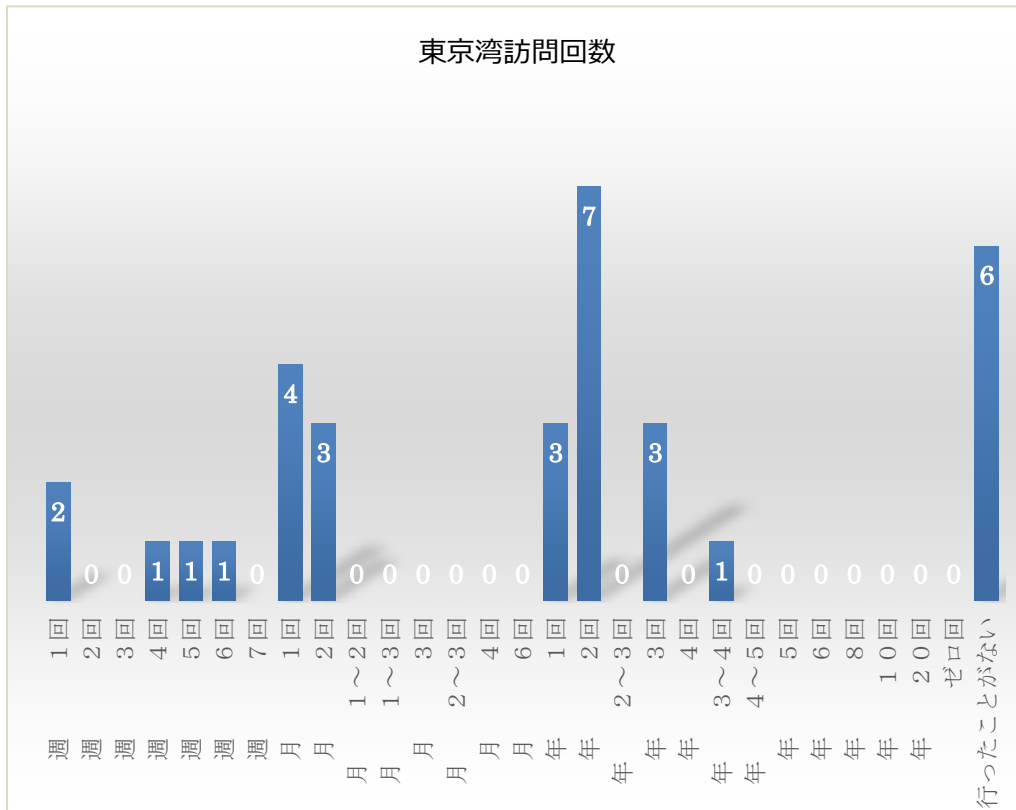
(性・年代別内訳)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
男性	0	1	3	8	3	0	3	18
女性	0	1	6	5	2	2	4	20
	0	1	9	13	5	2	7	38
性別不明				1				1
性別年代不明				9				10



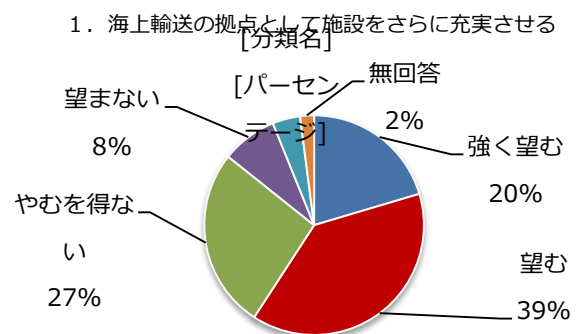
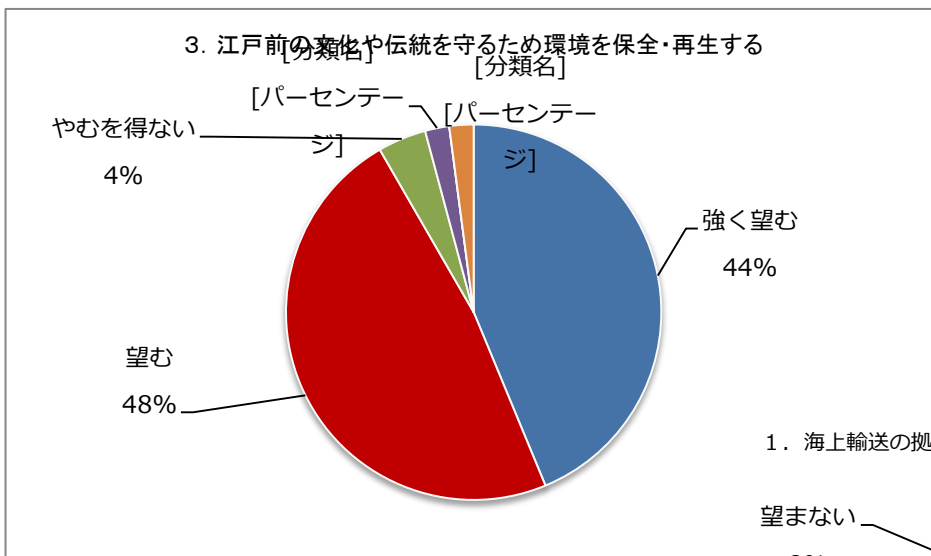
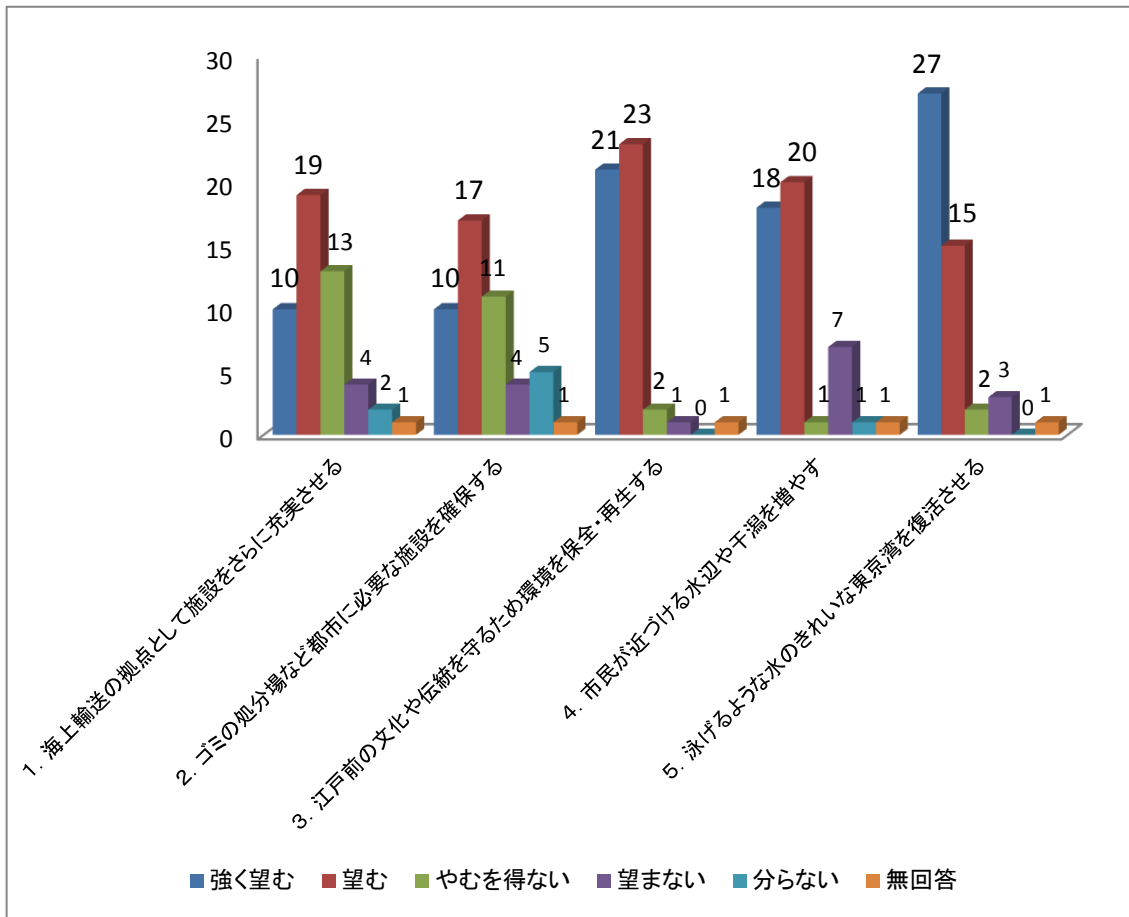
■感謝祭への来訪理由

(男性・女性 合計 参加の理由)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
1. 官民連携フォーラムのHPや東京湾大感謝祭のHP、フェイスブックを見て	0	0	0	3	1	0	2	0	6
2. ポスター、チラシなどを見て関心を持ったから	0	0	0	2	0	0	1	2	5
3. 知人、友人、家族などに誘われたから	0	0	3	0	1	2	3	1	10
4. 関係団体加入しているため	0	0	0	1	1	0	0	1	3
5. 新聞やニュース、自治体広報誌などにより	0	0	1	0	1	0	1	2	5
6. 赤レンガのHPなどにより	0	1	0	2	0	0	1	2	6
7. その他（ 用事1、通りがかり1）	0	1	5	6	0	0	1	2	15

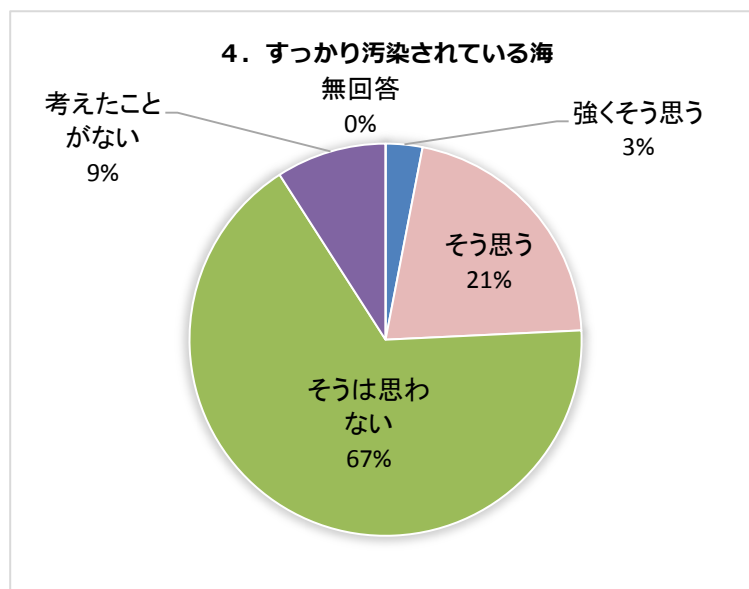
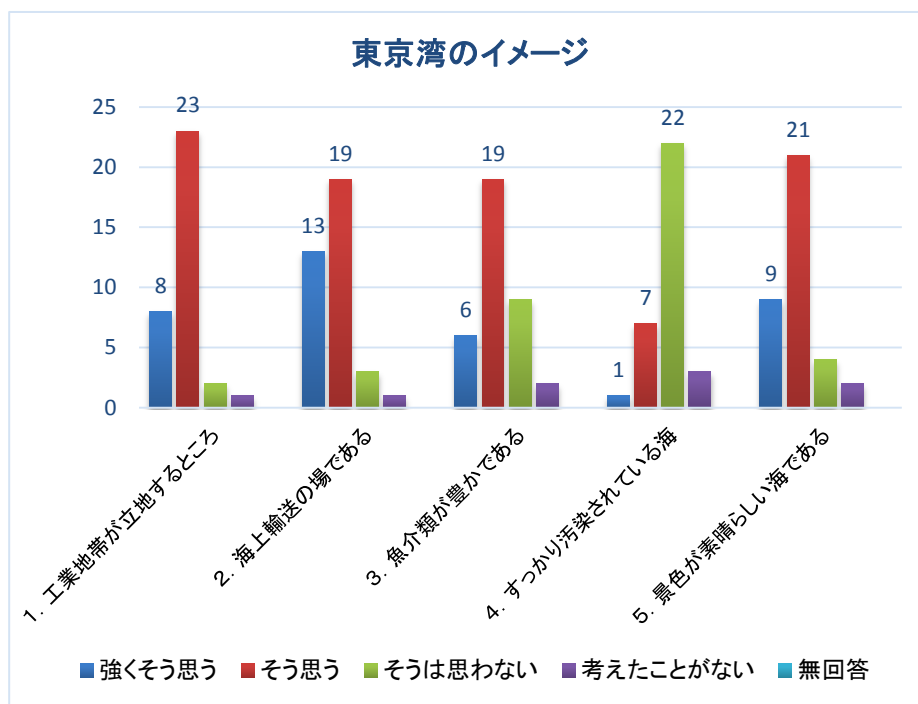
■東京湾への訪問回数



■税が東京湾のために使われるとしたら、どんなことに使われることを望みますか？



■東京湾のイメージについて



※東京湾再生官民連携フォーラム事業は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団からの
多大なご支援を受けております。
また、平成 27 年度は、赤城乳業(株)のご寄附を活用させていただきました。



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」
が推奨する事業として認定を受けています

東京湾再生官民連携フォーラム事務局

東京都港区虎ノ門 3-1-10 第2虎の門電気ビルディング 4F
(一般財団法人 みなと総合研究財団内)

電話 03-5408-8298

平成27年度決算

2016/5/17

【収入の部】

(単位:円)

科 目	H27年度予算	H27年度決算	備 考
(1) 寄付金収入	500,000	207,275	赤城乳業他
(2) 助成金収入	5,000,000	5,000,000	セブーンイレブン記念財団
(3) 雑収入	0	17,721	
普通利息	0	365	
その他	0	17,356	
(A) 単年度収入合計	5,500,000	5,224,996	
(B) 前年度繰越金	65,815	65,815	
(C) 収入合計 =(A)+(B)	5,565,815	5,290,811	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	H27年度予算	H27年度決算	備 考
(1) 事務局経費	3,711,000	3,428,174	
1) 事務局人件費	3,078,120	2,636,604	給与、通勤費等
2) 事務局運営費	632,880	791,570	HP管理・更新、通信費
(2) フォーラム及び大感謝祭費	1,854,815	1,779,088	企画運営委員会会場借り上げ費、PT会合会場費借り上げ費、フォーラム総会会場借り上げ費、広報宣伝費等
(D) 単年度支出計	5,565,815	5,207,262	
(E) 単年度収支差額 =(A)-(D)	-65,815	17,734	
(F) 次年度繰越金=(C)-(D)	0	83,549	